

5. がん検診・各種検診

大腸がん検診

個別

大腸がんでの死亡数は男女とも増加傾向にあり、今後も増えると予想されています。

食生活の欧米化で、肉類や脂質の摂取量が増え、食物繊維の多い野菜などの不足が影響しているといわれており、生活様式が強く関係していることが明らかになっています。

対 象 者	40歳以上の方(昭和61年3月31日以前の生まれ)
検 診 内 容	大腸がんを発見するための検診です。 自宅で専用容器に2日間便をとり、血液が混じっていないか検査します。
実施会場・日程	【個別検診】5月～翌年2月までに、市内指定医療機関（13～14ページ参照）で受診できますので、医療機関へ直接予約をしてください。事前に申し込まれた方には、案内通知を4月に郵送します。
受 診 料	500円
結 果	受診から約1～2か月後に通知します。

胃がん検診

集団

胃がんは、50代以降に罹患する人が多く、全国のがんによる死亡数割合の上位に位置しています。早期の胃がんは検診で発見されやすいため、定期的に検診を受けることが大切です。

対 象 者	40歳以上の方(昭和61年3月31日以前の生まれ) ◆次に該当する方は、胃がん検診を受けられません◆ - 過去に食道、胃、十二指腸のいずれかを切除した方 ※内視鏡的治療（EMR、ESD）も含む（治療の傷跡が異常と判定され、それ以外には異常がなくても精密検査が必要となる場合が多いため、内視鏡検査等の定期的な経過観察をおすすめします） - 人工肛門を造設している方 - 病気などにより水分制限を受けている方 - 酸素吸入をしている方 - 過去にバリウム検査でアレルギー症状がでたり誤嚥された方 - 体重が130kg以上ある方 - 過去1年以内に消化器の手術（腹腔鏡含む）をした、または脱腸・腸閉塞・腸捻転になった方 - 過去2か月以内に大腸ポリープの切除をした方 - 過去1年以内に心疾患や脳血管疾患を発症した（病気の症状が現れた）方 - 胃や腸の病気で治療中又は経過観察中の方 - 妊娠中及び妊娠していると思われる方、不妊治療中の方 - 検査直前の血圧が最高血圧180mmHgまたは最低血圧が110mmHg以上の方 （検査当日に会場で測定します。） ※治療中の方は薬を検査2時間前までに、200ml以内の水または白湯で必ず服用してください。 - 重度の便秘症の方（当日まで72時間、排便がない方） - 検診当日体調のすぐれない方 ※何らかの病気（心疾患・慢性腎疾患・認知症など）で治療中の方や身体の不自由な方は、受診について主治医とご相談ください。ご高齢の方は、バリウムの誤嚥やバリウムによる極度の便秘などの危険性があるため、安全性を考慮し、市の検診ではなく医療機関での内視鏡検査等をお勧めします。
検 診 内 容	胃がんを発見するための検診です。検診車内で、発泡剤（胃を膨らませるためのもの）とバリウムを飲み、胃のレントゲン撮影をします。 ※感染症予防等のため、 検査着の貸し出しや脱衣かごはありません。 あらかじめ撮影できる服装でお越しください。
受 診 料	1,000円 ※受診料の免除については、1ページをご覧ください。
結 果	受診から約1～2か月後に通知します。